

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2015年10月25日聖日礼拝

---

「謙遜～よほどの事情」

民数記11章26節-12章9節

河村従彦牧師



# 聖書朗読

## 旧約聖書

### 民数記 11章26節 - 12章9節

聖書本文は新改訳聖書第三版  
( ©新日本聖書刊行会 ) を使用しています。

第二版の聖書はp229 ~ / 第三版の聖書はp250 ~

- 26 そのとき、ふたりの者が宿営に残っていた。  
ひとりの名はエルダデ、もうひとりの名はメダ  
デであった。彼らの上にも霊がとどまった。  
——彼らは長老として登録された者たちであった  
が、天幕へは出て行かなかった——彼らは宿営  
の中で預言した。
- 27 それで、ひとりの若者が走って来て、モーセ  
に知らせて言った。「エルダデとメダデが宿  
営の中で預言しています。」
- 28 若いときからモーセの従者であったヌンの子  
ヨシュアも答えて言った。「わが主、モーセよ。  
彼らをやめさせてください。」

- 29 しかしモーセは彼に言った。「あなたは私のために思ってねたみを起こしているのか。主の民がみな、預言者となればよいのに。主が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。」
- 30 それからモーセとイスラエルの長老たちは、宿営に戻った。
- 31 さて、主のほうから風が吹き、海の向こうからうずらを運んで来て、宿営の上に落としました。それは宿営の回りに、こちら側に約一日の道のり、あちら側にも約一日の道のり、地上に約二キュビトの高さになった。

- 32 民はその日は、終日終夜、その翌日も一日中出て行って、うずらを集め、——最も少なく集めた者でも、十ホメルほど集めた——彼らはそれらを、宿営の回りに広く広げた。
- 33 肉が彼らの歯の間にあってまだかみ終わらないうちに、主の怒りが民に向かって燃え上がり、主は非常に激しい疫病で民を打った。
- 34 こうして、欲望にかられた民を、彼らがそこに埋めたので、その場所の名をキブロテ・ハタアワと呼んだ。
- 35 キブロテ・ハタアワから、民はハツェロテに進み、ハツェロテにとどまった。

## 12章

- 1 そのとき、ミリヤムはアロンといっしょに、モーセがめとっていたクシュ人の女のことで彼を非難した。モーセがクシュ人の女をめとっていたからである。
- 2 彼らは言った。「主はただモーセとだけ話されたのでしょうか。私たちとも話されたのではないのでしょうか。」主はこれを聞かれた。
- 3 さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった。
- 4 そこで、主は突然、モーセとアロンとミリヤムに、「あなたがた三人は会見の天幕の所へ出よ」と言われたので、彼ら三人は出て行った。

- 5 主は雲の柱の中にあって降りて来られ、天幕の入口に立って、アロンとミリヤムを呼ばれた。ふたりが出て行くと、
- 6 仰せられた。「わたしのことばを聞け。もし、あなたがたのひとりが預言者であるなら、主であるわたしは、幻の中でその者にわたしを知らせ、夢の中でその者に語る。
- 7 しかしわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者である。
- 8 彼とは、わたしは口と口とで語り、明らかに語って、なぞで話すことはしない。彼はまた、主の姿を仰ぎ見ている。なぜ、あなたがたは、わたしのしもべモーセを恐れずに非難するのか。」

9 主の怒りが彼らに向かって燃え上がり、主は去って行かれた。



# 説教

「謙遜～よほどの事情」

民数記11章26節-12章9節

河村従彦師



はじめに

70人長老制に関連してトラブル

プライベートな問題へのツッコミ

# I 謙遜の一般的な意味

A 腰の低さ ~ 分を弁える

B 謙遜ではないもの

- 1 控えめな態度
- 2 分を弁えない鈍感さ

C モーセの立場が醸し出す雰囲気

- 1 神さまの語りかけ
- 2 このような巨人への形容詞

## II モーセの謙遜を問い直す

- A 自分では全部を担えないという意識
- B 神さまが関わりをもってくださいという意識
- C 自分と他者が混同してないこと
  - 1 失敗・問題は自分と民の論争ではない
  - 2 世界を動かすことは自分の仕事でも責任でも全くない
  - 3 人生の起きたすべてのことを自分の力のせいにしない
  - 4 範囲と境界線
- D 自分で理解できない領域があることを知っていること

### III 「よほどの事情があたりで」の信仰

A 他人の「よほどの事情」

B 神さまの「よほどの事情」

C わたしたちの「よほどの事情」を尊重して  
くださる神さま